

## 今日の富士山

つかはら にはち

小田原城のお掘りを埋めた、ピンクの花びら。桜が終われば鯉の美味い季節。春から夏へ。四季の移り変わりを満喫できる飲みを胸に我が地より仰ぎ見る富士の山は、手前に居並ぶ箱根の山々の稜線を覆い隠すかのような白い雲の固まりが立ち上がり雄大なお姿を拝むこともままならない日が続いております。

そんな中、久し振りの大々晴天の日。さあ、今日も頑張るぞと気合を入れてパソコンを立ち上げる。「ブルルッ、ブルルッ」朝一番にての電話は客先からの苦情電話。ソレツとばかりに東名を飛ばしてトヨタ系列の工場へ向うこと四時間。まだ三十代と思われる担当者に詫びること一時間。罵倒はされないまでも上から目線に耐え忍び、再び東名へ。

晴天の富士を仰ぎ見るには絶好の場所と信じる上り富士川サーブエリアに車を止め、何時ものよう

に「楽市楽座館」の三階ラウンジのソファに腰を降ろす。全面ガラス貼りの向こうに雄大な富士山の裾野までもが見渡せる。愛しのお山は萎えた小生を温かく癒してくれた。

このコーナーは無料のスペースとなっており誰もが自由に出入りし、一般道路からも上がって来る事ができる。知る人ぞ知る穴場である。

ラウンジの隅にカウンターコーヒーショップが設けられ、さして若くはないが婦人の入れてくれるコーヒーを飲みながら時間の経つのも忘れることが出来る。

ここでの楽しみはそれだけではない。機会があれば是非一度立ち寄ってみてはいかが。気に入ること請け合い。

何にでも興味を持つ、好奇心旺盛な貴兄においては早速にパソコンで検索されたことと思えます。道の駅「富士川楽座」が正式名称となっています。何度も言いますが、この憩いの場所は一般道からも東名上りサーブエリアからも入れます。是非、機会あらばお立ち寄り下さい。

さて、このラウンジにおけるもう一つの楽しみとは、雄大な富士山の裾野から、眼下に流れる富士川

の広い川原にかけて、幼き頃に夏の風物詩として想  
い起される河川敷での野外映画のスクリーンの如く、  
時代劇が繰り広げられるのであります。

時は戦国、風雲立ち込める富士の裾野は領土を賭  
けての氣勢のぶつかり合い。甲斐の武田、駿河の今  
川、相模の北条、北から攻め入る越後の上杉。はた  
また近江の長政、美濃の道三、三河の家康、尾張の  
信長と名高い武将の強者達が入り乱れます。

時は流れて江戸も末期、富士山を背中に富士川の  
川原では、甲州ども安の子分だった黒駒勝蔵、尾州  
は保下田久六、遠州中郡は都鳥吉兵衛、そして誰も  
が知っている清水の次郎長。広沢虎造の名調子に合  
わせ、義理と意地の鏝迫り合いが繰り広げられるの  
であります。

あまりの癒し効果の高い絶景についつい鼻提灯。  
決まって夢に出てくるのは、勝どきを上げる我の姿。  
締まりの無い小生の寝顔を見てか、今日の富士山は  
いつの間にか目を覆うが如く白い雲の姉さん被り。